

2016 年業績リスト

【学術論文】

1. Ohnishi M, Leshabari S, Ambikile JS, Oishi K, Nakao Y, Nishihara M: Associations among anthropometric measures, food consumption, and quality of life in school-age children in Tanzania. *Journal of Rural Medicine* (in press)
2. Honda A, Date Y, Abe Y, Aoyagi K, Honda S: Communication, support and psychosocial work environment affecting psychological distress among working women aged 20 to 39 years in Japan. *Ind Health* 54(1): 5-13, 2016
3. Tanaka T, Tanaka K, Suyama K, Honda S, Senjyu H, Kozu R: A comparison of objective physical activity, muscle strength, and depression among community-dwelling older women living in sloped versus non-sloped environments. *J Nutr Health Aging* 20(5): 520-4, 2016
4. Nishida A, Abiru H, Hayashi H, Uetani M, Matsumoto K, Tsuchiya T, Yamasaki N, Nagayasu T, Hayashi T, Kinoshita N, Honda S, Ashizawa K: Clinicoradiological outcomes of 33 cases of surgically resected pulmonary pleomorphic carcinoma: correlation with prognostic indicators. *Eur Radiol* 26(1): 25-31, 2016
5. Iso N, Moriuchi T, Sagari A, Kitajima E, Iso F, Tanaka K, Kikuchi Y, Tabira T, Higashi T: Monitoring Local Regional Hemodynamic Signal Changes during Motor Execution and Motor Imagery Using Near-Infrared Spectroscopy. *Front Physiol* 6:416, 2016 doi: 10.3389/fphys.2015.00416
6. Suzuki T, Sugawara K, Ogahara K, Higashi T: Time Course of Corticospinal Excitability and Intracortical Inhibition Just before Muscle Relaxation. *Front Hum Neurosci* 10:1, 2016 doi: 10.3389/fnhum.2016.00001.
7. Kitajima E, Moriuchi T, Iso N, Sagari A, Kikuchi Y, Higashi T: Actual use of and satisfaction associated with rollators and "shopping carts" among frail elderly Japanese people using day-service facilities. *Disabil Rehabil Assist Technol* 1-7, 2016
8. Sugawara K, Tanabe S, Suzuki T, Higashi T: Effect of neuromuscular electrical stimulation on motor cortex excitability upon release of tonic muscle contraction. *Somatosens Mot Res*, 33(3-4):161-168, 2016
9. Suzuki T, Hiraishi M, Sugawara K, Higashi T: Development of a smartphone application to measure reaction times during walking. *Gait Posture* 50:217-222, 2016 doi: 10.1016/j.gaitpost.2016.08.032.
10. Iso N, Ooso S, Yamamoto N, Moriuchi T, Sagari A, Iso F, Tanaka K, Tabira T, Higashi T: Effect of mental practice using inverse video of the unaffected upper limb in a subject with chronic hemiparesis after stroke. *J Phys Ther Sci*, 28(10):2984-2987, 2016

11. 橋村愛, 大西真由美: 長崎市・佐世保市の看護職が考える外国人への周産期ケアコミュニケーション能力. 国際保健医療 (in press)
12. 濱田由香里, 中尾理恵子, 大西真由美: 長崎県における薬局 DOTS 実施可能性の検討. 日本公衆衛生雑誌 63(5):260-268, 2016
13. 西原三佳, 大西真由美, 中村安秀: 岩手県陸前高田市未来図会議が果たしてきた役割: 災害対応計画へのモデルとして. 日本公衆衛生雑誌 63(2):55-67, 2016
14. 西田隆宏, 川崎涼子, 西原三佳, 本田純久: 地域在住の二次予防プログラム参加者における運動機能と認知機能の変化. 保健学研究 28:77-83, 2016
15. 古後晴基, 村田潤, 東登志夫, 村田伸, 鳥山海樹, 山下裕, 今村純平: 浮腫における圧痕深度計測法の妥当性および圧痕性浮腫の判別. ヘルスプロモーション理学療法研究 6(1):29-33, 2016

【総説】

1. 東登志夫: 実践に役立つ! 生活行為向上マネジメント 第1章 総論 プラン立案の視点. 作業療法ジャーナル 50(8):766-770, 2016

【報告、その他】

1. Nishihara M, Tanaka J, Manago Y, Sakata K, Kubo N, Ohnishi M: Japanese undergraduate nursing students with international exchange experience anticipate a probability of providing care to foreign nationals as a nurse. Health Science Research (in press)
2. Tanaka J, Nishihara M, Izuno R, Okada M, Mori F, Ohnishi M: Comparison of opportunities to learn about HTLV-1/HTLV-1-related diseases and HIV/AIDS among nursing students in Nagasaki University. Health Science Research (in press)
3. Kit A, Ohnishi M: An evaluation of strategies to promote health to tackle food restriction in postpartum women in Lao People's Democratic Republic. Health Science Research (in press)
4. Nishihara M, Ohnishi M, Kazama H, Ajiwala M, Atieno OL, Owuor GG, Kit A, Higashi T, Matsusaka N: Perspectives of community health workers and women's leaders regarding people with disabilities and their recognition of their roles and functions in rural Kenya. Health Science Research 28:47-53, 2016
5. 前田俊輔, 本田歩美, 伊達 豊, 本田純久: 在宅療養支援シリーズ 当法人における ICT を活用した在宅療養支援の経緯と展望. 日本慢性期医療協会誌 23(6):52-55, 2016

【書籍】

1. 大西真由美. 3章 国際保健医療で働く. In 国際保健医療学会編. 国際保健医療のキャリアナビ. 東京：南山堂, 2016, 181-189.

【学会発表、シンポジウム、その他】

1. 西原三佳, 中村安秀, 大西真由美: 岩手県気仙地域における育児ソーシャルサポート関連要因分析. 日本公衆衛生雑誌 63(10)特別付録: 455, 2016
2. 濱里セツ子, 中尾理恵子, 大西真由美: 発達フォローアップ児と一般健康児の睡眠状況と母親の子育ての自身との関連. 日本公衆衛生雑誌 63(10)特別付録: 465, 2016
3. 西田隆宏, 川崎智子, 西原三佳, 川崎涼子, 中尾理恵子, 本田純久: 地域在住の二次予防事業対象者における転倒歴と足趾間力との関連. 日本公衆衛生雑誌 63(10)特別付録: 501, 2016
4. 濱田由香里, 大西真由美: 自死遺族のレジリエンス促進要因の検討—面接調査の自由な語りの分析より. 日本公衆衛生雑誌 63(10)特別付録: 545, 2016
5. 磯直樹, 田中浩二, 松本康宏, 宮本泉, 大曾史朗, 磯ふみ子, 東 登志夫: コミュニケーションタイプ分類を用いた臨床実習指導の効果. 日本作業療法研究学会雑誌 19(1):60, 2016
6. 東 登志夫, 森内 剛史, 磯 直樹, 長谷川 隆史, 松田 大輝, 藤村 誠: KINECTを活用した新しい上肢機能評価・訓練システムの開発に向けた予備的検討. 日本作業療法研究学会雑誌 19(1):56, 2016
7. 鈴木智高, 平石雅裕, 東登志夫, 菅原憲一: 歩行中の注意機能を評価する Probe Reaction Time 計測スマートフォンアプリケーションの開発. 日本基礎理学療法学雑誌 20(1):361, 2016
8. 中島輝, 森本茉々莉, 大塚理, 山内良太, 片岡英樹, 中島龍星, 小泉徹児, 笠伸年, 東登志夫: 拡散テンソル画像と VBM を併用した運動麻痺の予後予測 rFA 値と運動麻痺の回復に矛盾が見られた 2 症例. 日本作業療法研究学会雑誌 18(2): 51-52, 2016
9. 中島輝, 本田秀明, 片岡英樹, 小泉徹児, 東登志夫: 脳イメージングを用いた麻痺側上肢機能の予後予測. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月
10. 光永済, 米澤武人, 清水希, 大久保篤史, 東登志夫: 抑うつ的な筋萎縮性側索硬化症患者に対する急性期作業療法. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月
11. 米澤武人, 光永済 白石裕一, 吉村俊佑, 東登志夫: パーキンソン病患者に対する表情筋トレーニングの効果. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月
12. 森内剛史, 松田大輝, 中島輝, 松尾崇史, 東登志夫: 再生速度の異なる映像の運動観察における大脳皮質運動野の興奮性変化. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月

13. 小柳昌彦, 山田麻和, 磯直樹, 東登志夫, 辻畑光宏: 脳卒中後うつにおける BDI-II, HAM-D 及び光トポグラフィ検査の関係. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月
14. 壺岐尾優太, 佐賀里昭 東登志夫: 化学療法誘発性末梢神経障害における機能障害と上肢機能との関連. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月
15. 松尾崇史, 荒巻裕迪, 森内剛史, 田平隆行, 東登志夫: 視覚的無視症状に対する聴覚的空間探索訓練の効果検証. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月
16. 北島栄二, 森内剛史, 磯直樹, 佐賀里昭, 東登志夫: 高齢者通所施設の要介護高齢者における歩行車とシルバーカーの使用実態と満足度. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月
17. 小河原格也, 東登志夫: ターツ課題における運動学習と脳内活動の関係. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月
18. 磯ふみ子, 平瀬達哉, 井口茂, 田中悟郎, 東登志夫: 文科省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業における長崎大学の取組み—チーム医療教育における他学科との共修の効果—. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 2016 年 9 月

【外部資金獲得状況】

< 科研 >

1. 科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究（平成 26 年度～平成 28 年度）「社会的不利環境下にある銅山労働者の自主的安全・保健予防行動の促進要因」（研究代表者：大西真由美）
2. 科学研究費補助金・基盤研究 C（平成 26 年度～平成 28 年度）「倫理的課題・ジレンマに対応する保健医療人材育成のための基盤的研究（研究代表者：川崎涼子、研究分担者：大西真由美、中尾理恵子、西原三佳）
3. 科学研究費補助金・基盤研究 C（平成 28 年度～平成 31 年度）「日本人留学生の海外における性行動とその関連要因に関する研究」（研究代表者：橋本秀実, 研究分担者：大西真由美）
4. 科学研究費補助金・基盤研究 C（平成 26 年度～平成 28 年度）「KINECT を活用した新しい上肢機能評価・訓練システムの有用性の検討」（研究代表者：東登志夫）
5. 科学研究費補助金・基盤研究 C（平成 28 年度～平成 30 年度）「センサペグボードの開発と有用性の検討」（研究分担者：東登志夫）
6. 科学研究費補助金・基盤研究 C（平成 27 年度～平成 29 年度）「高齢慢性疼痛患者に対する注意バイアス修正プログラムの効果検証」（研究分担者：東登志夫）
7. 科学研究費補助金・基盤研究 C（平成 27 年度～平成 29 年度）「日常生活における麻痺手の使用を促すための行動変容システムの開発研究」（研究分担者：東登志夫）

8. 科学研究費補助金・基盤研究 B（平成 27 年度～平成 29 年度）「筋活動入力で多自由度指運動が可能な電動グローブの開発と脳卒中リハビリでの効果検証」（研究分担者：東登志夫）

< 科研以外 >

1. 公益財団法人かんぽ財団調査研究助成（平成 28 年 7 月～平成 29 年 6 月）「少子社会における大学生の性意識と性行動」（研究代表者：大西真由美）
2. 国立がん研究センター・がん研究開発費「共同研究グループのデータセンター間の連携によるがん治療開発研究の効率化と質的向上のための研究」（研究代表者：福田治彦，研究分担者：本田純久）
3. 公益財団法人九州先端科学技術研究所・中小企業経営支援等対策費補助金（戦略的基盤技術高度化支援事業）「高齢者の特性に合わせた独自のロジックを持つ学習型人工知能を搭載した自動鑑別診断システムの開発」（研究代表者：前田俊輔，研究分担者：本田純久）